

あやめの里

あやめの里 行動理念と品質方針

平成15年3月15日
施設長 下河邊 勝世

“いのち輝いて、笑顔あふれるふれあいの里”

あ 暖かく質の高いケアを提供します。

- 1 インフォームドコンセントを重んじ、納得のいく説明と同意に努めます。
- 2 身体的のみならず、精神面にも配慮した全人的ケアに努めます。
- 3 在宅復帰を目指し、ひとりひとりの状態や段階に適切なケアプランの立案に努めます。
- 4 各分野の専門職員がチームを組んで問題解決にあたります。
- 5 人としての誇りと尊厳を大切に、身体拘束をしないケアを実践します。

や 優しく、丁寧なリハビリテーションを行います。

- 6 リハビリテーションスタッフの充実を図り、個人に応じた専門的リハビリテーションを行います。
- 7 全ての職員がQOL向上の為、生活リハビリテーションにかかわります。

め めきめきと元気がでる、おいしいお食事をお楽しみ下さい。

- 8 五感で楽しめる食事、季節感を取り入れたメニューを重視します。
- 9 可能な限り個人の要望に応えたメニューに努めます。
- 10 食品衛生を第一にします。

の のびのびと自分らしい生活、個性を大事にします。

- 11 レットミー ディサイド(自己決定)を尊重します。
- 12 できる限り個人の特性・事情に配慮し、個別的な対応を致します。
- 13 癒しの環境の整備に努めます。

さ サービスの向上をめざして、常に自己研鑽に努めます。

- 14 更なる利用者の高いニーズに答えるために、品質マネジメントシステムを絶えず改善・進歩させることに努めます。
- 15 毎年ひとつ、すべての職員が自己研鑽の課題を設定し、取り組みます。

と とともに手を繋ごう、高齢者とその家族、ボランティア、職員、地域の和。

- 16 ご利用者、ご家族と良いコミュニケーションをとり、ケアプランを共有しお互い納得のいくケアやリハビリを行います。
- 17 地域ケアの中核施設として、医療福祉施設及び地域の皆様との連携、交流に努めます。

平成30年度 年報



施設長 下河邊 勝世

平成30年度は、年度目標として、1. 真価～基本（介護報酬改定に伴い、老健の本来機能を再認識する） 2. 深化～充実（サービスのグレードアップを図る） 3. 進化～発展（独自の工夫と改善）を掲げた。

4月には、介護報酬改定が行われ、これまで在宅復帰率のみを基準として、在宅強化型、加算型、従来型の3型に分けられていたのが、①在宅復帰率②ベッド回転率③入所前後訪問指導割合④退所前後訪問指導割合⑤居宅サービス実施数⑥リハ専門職配置割合⑦支援相談員配置割合⑧要介護4・5割合⑨喀痰吸引実施割合⑩経管栄養実施割合の十項目を点数化し、その合計で①超強化型②在宅強化型③加算型④基本型⑤その他型の5類型となった。10項目を、それぞれ高得点で満たせば、高類型を獲得でき、老健本来機能を発揮できるとともに、収益のアップに繋がるのである。当初加算型であったが、6月から在宅強化型となり、7月からは超強化型となり、現在まで維持できている。超強化型を維持するには、老健全職種の意欲と連携が大切と思われる。また各職種が各々の職務をきっちりと果たさなければ達成できないので、今回の改定は施設の年度目標 1. 真価とも合致し、老健の本来機能を再認識し、各々の仕事への取組みを考え直す良いきっかけとなった。

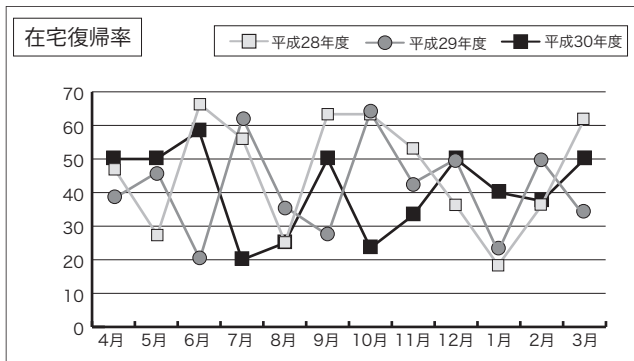
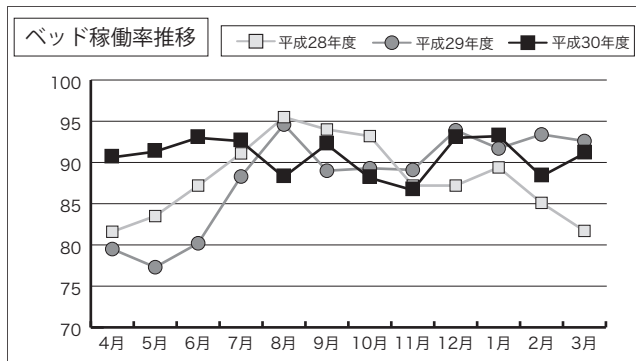
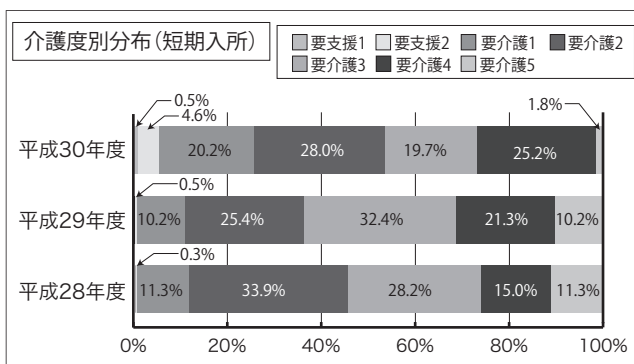
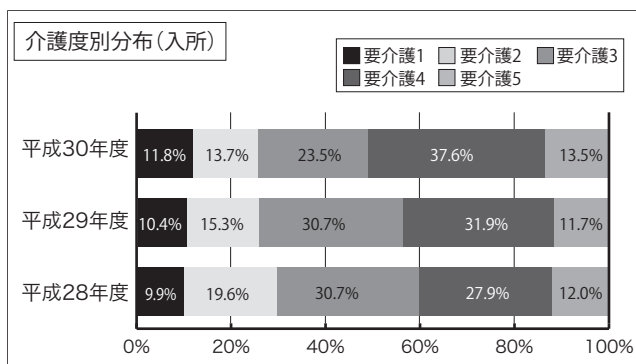
ただ、慢性的な人手不足は続いており、特に介護職と厨房関連に顕著である。入所者の高齢化・重度

化は年々進んでおり、以前は見なかった何度も繰り返す肺炎、心不全の急性増悪、末期癌、重度認知症など看・介護の負担は大きくなるばかりである。しかしその中でも、年度目標 2. 深化の努力は続けられたと思う。病院とは違い、より“お家”に近い環境の整備に努めた。ベランダの花壇や野菜畑を整備し、花や野菜の成長を楽しみ、野菜の収穫、調理まで楽しんでいただけた。コンビニの訪問販売も取入れ、自由に買い物行けない方には大変喜ばれた。認知症に対しては、“ユマニチュードケア”の勉強会と実践が進められた。ホームページの充実も図られたが、これについては今の時代に大事な情報発信手段であり、今後大いに改善工夫の必要があると考えている。年度目標 3. 進化は介護職の身体的負担軽減のため、ロボットスーツ着用実験を行ったが、まだ実用段階には至っていない。床走行式リフトは、使用説明会を数度行い日常の介護に活かしている。また、各職種ごとに“5S”活動による職場環境改善を図った。メディカルフィットネスと共催の“脳はつらつ教室は、1クール3か月で継続できており、介護予防・認知症予防に多少とも貢献できていると思われる。

地域の皆様が、住み慣れた所で生涯にわたって安心安全に笑顔で過ごすことができる、地域包括ケアシステムの一角を担う施設として、今後も改善を重ね、更なる進化を目指したい。

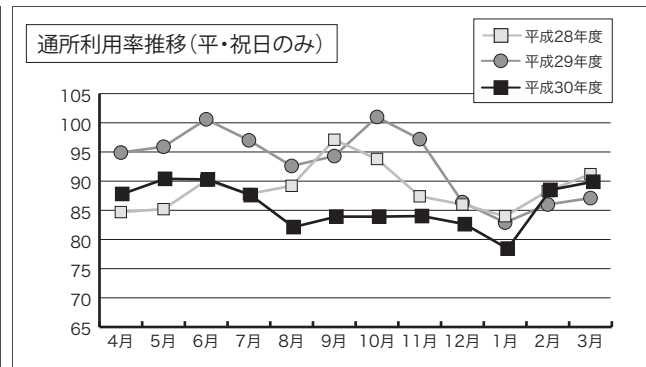
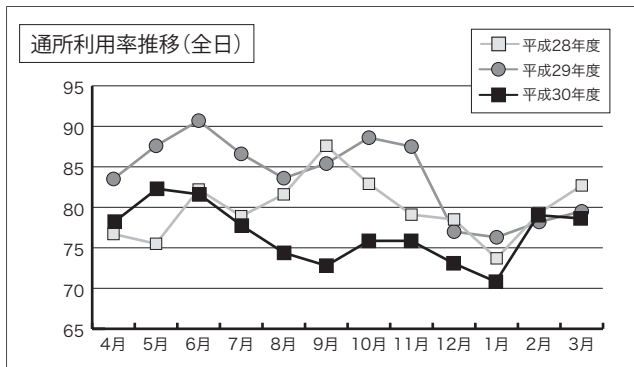
平成30年度 利用状況

	入所人数	退所人数	入所延件数	短期入所人数	短期退所人数	短期延件数	合計延件数	平均在所日数(入所)	平均在所日数(短期)	平均在所日数(入所+短期)	平均年齢	平均介護度	ベッド稼働率	在宅復帰率
4月	6	6	2,642	17	17	84	2,726	440.3	8.0	118.5	86.9	3.157	90.9	50.0
5月	8	9	2,713	18	16	128	2,841	319.2	10.3	111.4	85.0	3.248	91.6	50.0
6月	14	12	2,586	28	28	212	2,798	198.9	8.8	68.2	86.6	3.168	93.3	58.3
7月	7	11	2,729	29	28	152	2,881	303.2	11.7	76.8	84.3	3.250	92.9	20.0
8月	14	10	2,643	19	21	99	2,742	220.3	8.0	85.7	87.1	3.148	88.5	25.0
9月	8	12	2,661	24	24	113	2,774	266.1	7.2	81.6	86.9	3.076	92.5	50.0
10月	12	17	2,595	23	23	146	2,741	179.0	8.9	73.1	87.9	3.121	88.4	23.5
11月	11	4	2,503	22	24	104	2,607	333.7	6.1	85.5	87.6	3.130	86.9	33.3
12月	11	7	2,795	22	18	98	2,893	310.6	8.0	99.8	88.0	3.155	93.3	50.0
1月	5	11	2,743	27	30	157	2,900	342.9	8.1	79.5	87.9	3.143	93.5	40.0
2月	12	12	2,376	21	21	104	2,480	198.0	6.6	75.2	87.4	3.171	88.6	37.5
3月	14	12	2,681	33	33	151	2,832	206.2	8.0	61.6	87.4	3.074	91.4	50.0
年間	122	123	31,667	283	283	1,548	33,215	276.5	8.3	84.7	86.9	3.153	91.0	40.6
	(人)	(人)	(件)	(人)	(人)	(件)	(件)	(日)	(日)	(日)	(歳)		(%)	(%)



平成30年度 通所リハビリテーション利用状況

	営業日	予防給付者延件数	介護給付者延件数	総延件数	1日平均通所者数		利用率(稼働率)	
					全日	平・祝日のみ	全日	平・祝日のみ
4月	30	192	743	935	31.2	35.0	78.1	87.7
5月	31	190	809	999	32.9	36.1	82.2	90.3
6月	30	197	787	984	32.6	36.1	81.5	90.2
7月	31	174	774	948	31.0	35.0	77.6	87.5
8月	31	187	748	935	29.7	32.8	74.2	82.0
9月	30	177	714	891	29.0	33.5	72.6	83.8
10月	31	188	770	958	30.2	33.5	75.7	83.8
11月	30	181	745	926	30.2	33.5	75.7	83.9
12月	31	186	739	925	29.1	33.0	72.9	82.5
1月	31	171	726	897	28.2	31.3	70.6	78.3
2月	28	177	725	902	31.6	35.4	78.9	88.4
3月	31	184	810	994	31.4	35.9	78.5	89.8
年間	365	2204	9090	11294	30.6	34.3	76.5	85.7
	(日)	(件)	(件)	(件)	(人)	(人)	(%)	(%)



平成30年度 リハビリテーション実施状況

	入所		短期	通所				
	短期集中加算	認知症短期集中加算	個別加算	短期集中個別リハビリ実施加算	マネジメント加算Ⅰ	マネジメント加算Ⅱ	生活行為向上リハビリ加算	運動器機能向上加算
4月	446	43	38	39	79	20	0	28
5月	397	56	50	45	80	20	0	29
6月	479	112	80	64	77	25	0	28
7月	512	107	71	90	79	23	0	27
8月	581	97	62	84	75	23	0	29
9月	545	59	73	46	72	21	0	27
10月	526	46	59	42	75	21	0	28
11月	558	22	50	44	80	22	0	28
12月	561	22	46	63	80	22	0	27
1月	463	10	72	76	80	21	0	28
2月	443	35	54	84	82	23	0	28
3月	609	25	62	106	84	28	0	26
年間	6,120	634	717	783	943	269	0	333
	(件)	(件)	(件)	(件)	(人)	(人)	(人)	(件)

学会発表等

学 会 名	演 題 名	発 表 者
第38回 全国デイ・ケア研究大会2018 inつくば	自分でやりたい! ～リハビリ会議を通して、役割の再構築へのアプローチ～	作業療法士 杉本 淳子
平成30年度 北九州ブロック介護老人保健施設協会 合同研修大会	超強化型老健を目指して ～在宅復帰支援チームを立ち上げて～	事務 宮井 雅博

講師派遣等

日付	部署	氏名	講演名	場所
2018年 6月 3日	リハビリ科	都甲 幹太	福岡県作業療法協会 「地域ケア会議に向けた研修会」	福岡市
2018年 6月24日	リハビリ科	都甲 幹太	福岡県作業療法協会 「認知症アップデート研修会」	飯塚市
2018年 7月14日	リハビリ科	志田啓太郎	福祉用具専門相談員研修	中間市
2018年 7月20日	リハビリ科	都甲 幹太	山口県介護支援専門員協会 施設ケアマネジメントの基本的「き」研修会①	山口市
2018年 7月22日	リハビリ科	都甲 幹太	福岡県作業療法協会 「生活行為向上マネジメント 基礎研修」	飯塚市
2018年 7月29日	リハビリ科	都甲 幹太	全国デイ・ケア協会 「生活行為向上リハビリテーション研修会」	福岡市
2018年 8月 3日	リハビリ科	都甲 幹太	山口県介護支援専門員協会 施設ケアマネジメントの基本的「き」研修会②	山口市
2018年 9月 2日	リハビリ科	都甲 幹太	福岡県作業療法協会 「地域ケア会議に関する研修会【北九州】」	北九州市
2018年 9月15日	リハビリ科	志田啓太郎	福岡県理学療法士会 「管理者研修会」	北九州市
2018年 9月16日	リハビリ科	都甲 幹太	茨城県作業療法士協会 「現職者選択研修(老年期)」	茨城県
2018年 9月20日	リハビリ科	都甲 幹太	全国老人保健施設協会 認知症ケア研修会 ～認知症短期集中リハビリテーション研修認知症ケア研修会(医師対象)	大阪市
2018年 9月29日	リハビリ科	都甲 幹太	全国老人保健施設協会 職員基礎研修会・中堅職員研修会	大阪市
2018年 10月14日	リハビリ科	都甲 幹太	福岡県作業療法協会 「生活行為向上マネジメント 基礎研修」	北九州市
2018年 10月18日	リハビリ科	志田啓太郎	地域ケア会議アドバイザー派遣事業	宗像市
2018年 10月20日	リハビリ科	志田啓太郎	北九州ブロック介護老人保健施設協会 第2回研修大会2018 研究発表第1部座長	北九州市
2018年 10月20日	リハビリ科	志田啓太郎	福祉用具専門相談員研修	中間市
2018年 11月15日	リハビリ科	志田啓太郎	地域ケア会議アドバイザー派遣事業	宗像市
2018年 11月27日	リハビリ科	志田啓太郎	介護保険関連施設等従事者研修会	福岡市
2018年 12月 1日	リハビリ科	都甲 幹太	広島都市学園大学 実習指導者会議 「MDLPを用いた実習の進め方」	広島市
2018年 12月 8日	リハビリ科	都甲 幹太	北九州市認知症介護予防センター 「認知症の人の生活をしやすいコツ」	北九州市
2018年 12月15日	リハビリ科	都甲 幹太	福岡県作業療法協会 「認知症アップデート研修会」	北九州市
2018年 12月20日	リハビリ科	志田啓太郎	地域ケア会議アドバイザー派遣事業	宗像市
2019年 2月 1日	リハビリ科	都甲 幹太	鳥栖地域リハビリテーション研修会 「自立支援をするための生活課題の捉え方」	鳥栖市
2019年 2月 3日	リハビリ科	都甲 幹太	福岡県作業療法協会 「MTDLP 事例発表会」	北九州市
2019年 2月 6日	リハビリ科	都甲 幹太	北九州市認知症介護予防センター 「認知症介護教室」	北九州市
2019年 2月10日	リハビリ科	志田啓太郎	平成30年度介護予防推進リーダーステップアップ研修会	北九州市
2019年 2月11日	リハビリ科	都甲 幹太	山口県介護支援専門員協会 「施設ケアプランの書き方 研修会」	山口市
2019年 3月 4日	リハビリ科	都甲 幹太	佐賀県杵藤地区 地域リハビリテーション研修会 「自立支援をするための生活課題の捉え方」	佐賀県

あやめの里 沿革

平成8年8月1日	あやめの里 開設 通所リハビリテーション 30名定員(土日祝日、年末・年始休み) 入所100床(稼働 2階療養棟 38床)
平成8年8月12日	入所(稼働 3階療養棟 36床)
平成8年9月10日	入所(稼働 4階療養棟 26床)
平成8年9月12日	開設以来 入所50名に達する
平成9年8月9日	通所リハビリテーション 土曜日の営業開始
平成9年11月1日	通所リハビリテーション 40名定員に変更
平成10年7月20日	通所リハビリテーション 祝日の営業開始
平成10年12月30日	通所リハビリテーション 12月30日の営業開始
平成11年6月6日	通所リハビリテーション 日曜日の営業開始
平成11年12月31日	通所リハビリテーション 365日営業開始
平成14年7月31日	ISO9001:2000取得

あやめの里 概要

名称
介護老人保健施設 あやめの里

所在地
〒804 - 0092
福岡県北九州市戸畑区小芝2丁目4番18号
TEL 093 - 871 - 5902 FAX 093 - 871 - 5904

開設
平成8年8月

療養棟:100床(2階療養棟38床、3階療養棟36床、4階療養棟26床)
部屋数:37室(特別室2室、個室4室、2人部屋15室、4人部屋16室)

利用可能サービス:

■入所

対象:要介護1~5
定員:入所・短期入所含め100名

■短期入所(ショートステイ)

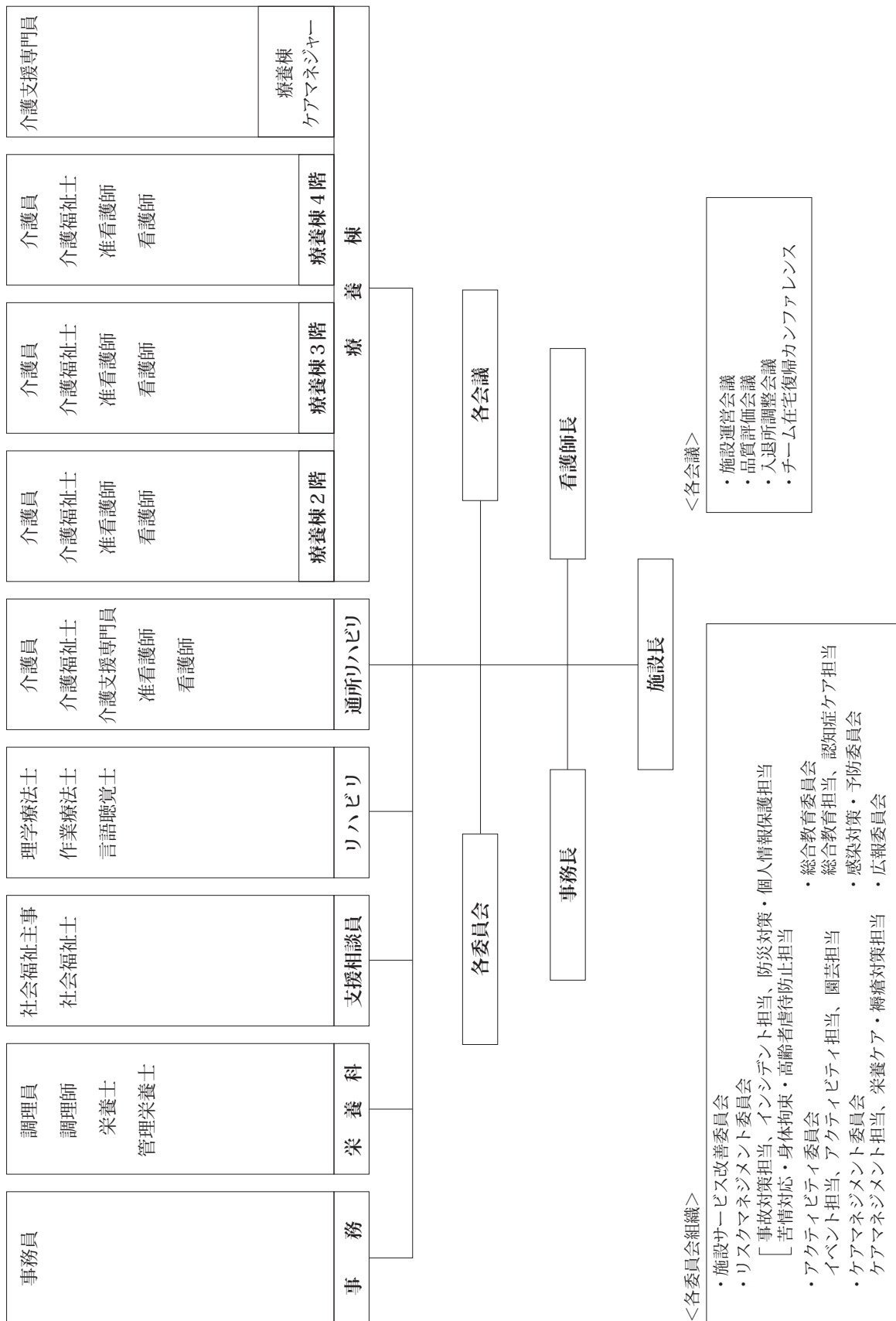
対象:要支援1・2、要介護1~5
定員:入所・短期入所含め100名

■通所リハビリテーション(デイケア)

対象:要支援1・2、要介護1~5
定員:40名/日(365日営業)

介護老人保健施設 あやめの里 組織図

H30.05.01 改定



学術業績（学会発表）

デイケア研究大会2018【2018年7月13日】

演 題:自分でやりたい!〜リハビリ会議を通して、役割の再構築へのアプローチ〜

演 者:杉本淳子/介護老人保健施設あやめの里

【目的】

A氏は心身機能の低下によって独居生活が困難となり家族と同居することになった。家事を全て家族が行うようになり自宅での役割が無くなってしまったA氏は「家にも何もさせてもらえないなら施設に入りたい」と発言するようになった。リハビリ会議を通してA氏と家族の想いを伝え合う場を設け、A氏の役割の再構築と在宅生活の質の向上を図る取り組みを行ったため報告する。

【方法】

A氏は80歳代後半の女性。掃除と外出が趣味の明るい方だが、加齢に伴う心身機能の低下により家族は体力と転倒への不安を考慮して家事を全て行っていた。A氏は自分で家事をしたい気持ちが強く、役割が無くなったことでストレスが溜まり施設入所を考えていた。リハビリ会議を通してA氏と家族の想いを伝え合い、A氏は①掃除機をかけたい②洗濯物を干したい③おしゃべりや買い物を楽しみたいという3つの希望を伝え、それに対して家族は「良かれと思って家事をしていたがそこまで思い詰めていると知らなかった。安全に出来て身体がきつくないのなら構わない」という折衷点が見つかった。通所リハでは安全な動作の検討と身体機能訓練、自宅の環境調整を行った。A氏は自宅内を固定式歩行器歩行で移動していたが、固定式歩行器で移動しながらの掃除は転倒リスクや疲労しやすさを考慮すると現実的ではなく、疲労状態では家事への意欲も向上しなかったため車いす移動を併用するよう調整した。掃除機をかけたいという希望は、掃除機の重さやコードが車椅子に引っかかり持ち運びが困難であったため、代替案として長柄のシート付モップでの床掃除を提案した。リハビリの際に車椅子で場所を移動しながら長柄のモップを使う練習をし、その様子を写真に撮ってリハビリ会議の場で家族に伝えて実際に自宅内での動作や掃除

場所を家族と確認した。洗濯物干しと買い物の希望に関しては、移乗動作と座位バランスの安定を図るため、通所リハと通所介護利用時に椅子座位で過ごすように統一して移乗する機会を増やした。

【結果】

リハビリ会議でA氏の能力の伝達と家族の不安への対処を繰り返し行ったことで、長柄のモップでの床掃除と家族との外出が実現した。また、本人より「家族の仕事の帰りが遅いため夕飯準備を手伝いたい」という希望があり、リハビリ会議の場で提案して内容を決め、現在は米を研いで炊飯器をセットすることが出来るようになった。洗濯物干しはまだ目標未達成だがA氏は施設入所の話をしなくなり「今が一番楽しい」笑顔で言われている。

【考察】

リハビリ会議を行ってA氏と家族が気持ちを明確に伝え合い、本人に関わる各サービス担当者が共通の意識で支援したことがA氏の役割の再構築と楽しみの再獲得に繋がったと考える。A氏の心身機能・家事動作の評価と予後予測をリハビリ職員が行って通所リハ・通所介護間で継続した訓練を提供したことで、より早く動作能力の改善が見られたと考える。また、A氏のしたいことを家族が不安なく任せられるようになったことがA氏の喜びと生きがいにつながり在宅生活を継続していけるきっかけになったと考える。

【まとめ】

加齢に伴い家族と同居をする方は多いが、心身機能の低下や家族の配慮によって活動性が低下したり役割をなくしてしまうことがある。サービス提供者は情報を共有して、本人と家族のお互いの想いを尊重しあった暮らし方を共に見つける支援をすることが大切だと感じた。

学会等・出張先一覧

自	至	氏名	所属部署	目的	発表	場所
5月24日	5月25日	谷 美奈	療養棟	第19回九州ブロック介護老人保健施設大会	演者	福岡県
5月24日	5月25日	花田 礼香	栄養科	第19回九州ブロック介護老人保健施設大会	演者	福岡県
6月14日	6月16日	下河邊勝世	施設長	第60回日本老年医学会総会学術集会		京都府
7月13日	7月14日	杉本 淳子	リハビリ科	第38回全国デイ・ケア研究大会2018inつくば	演者	茨城県
10月11日	10月14日	下河邊勝世	施設長	第37回日本認知症学会学術集会		北海道
1月28日		下河邊勝世	施設長	平成30年度福岡県認知症サポート医フォローアップ研修・福岡県認知症医療センター第14回研修会		福岡市
3月15日		下河邊勝世	施設長	福岡県介護老人保健施設協会 平成30年度第1回臨時社員総会		福岡市

H30年度実習生受入先一覧

施設・部署	学校名	人数
看護・介護	北九州市戸畑看護専門学校	35名
	美萩野保健衛生学院	46名
	麻生医療福祉&観光カレッジ	4名
	折尾愛真高等学校	2名
	東筑紫短期大学	2名
	北九州福祉サービス株式会社	3名
リハビリ科	学校法人東筑紫学園 九州栄養福祉大学	理学療法士:8名
	北九州リハビリテーション学院	理学療法士:2名
	小倉リハビリテーション学院	理学療法士:4名
	広島都市学園大学	作業療法士:1名